第 52 回いそご文化資源発掘隊
いま明らかにされる　大正と温室の謎

開 催 日：2021 年 12 月 11 日（土）
開催時間：1 回目　10 時～11 時 40 分
　　2 回目　13 時～14 時 40 分
会　　場：杉田劇場リハーサル室
参 加 者：1 回目　21 人　　2 回目 24 人
※新型コロナ感染拡大防止のため、定員の半分で開催。
お話：曽根武夫（栗木町）／多根雄一（杉劇）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今回のテーマは栗木町にある NTT のケーブル名「大正」とバス停名「温室前」の由来について、地元の方々の協力によりその謎を解き明かそうというものであった。

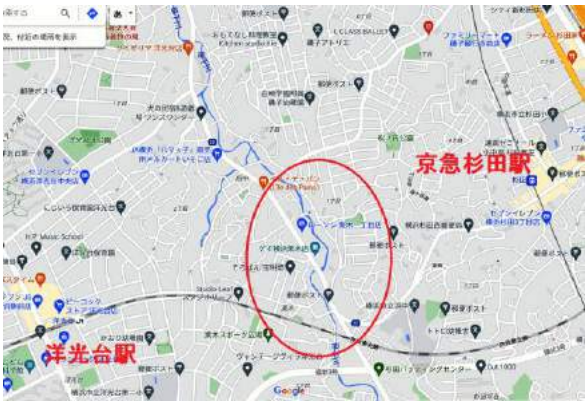
NTT のケーブル名には不思議なものが多い。例えば、中区・神奈川区にある以下のケーブル名は、それぞれ地域の歴史を背負っていることが知られている。

稲荷町：居留地時代の町名（山手町）
山吹橋：吉田川に架かっていた橋（山吹町）
師範：横浜国大附属小の前（師範学校跡）
ラジオ：野毛山にあったラジオ関東のこと
牧場：山手駅裏にあった牧場。北海道のような牧場ではなく、牛舎があった。

では、磯子区にはどのようなケーブル名があるのか？

貝塚：浜中学校前に貝塚があった。字名として使われていた
国鉄：昭和 39 年に根岸線が磯子まで延伸
君津：中原の奥に君津鋼板の社宅があった
日赤：日本赤十字病院があった（根岸）

今回話題になる栗木町のエリアはおおよそ次の地図の範囲である。京急杉田駅と JR 洋光台駅の中間。域内を大岡川（笹下川）が流れている。



「大正（支）」と書かれた電柱は、ハイタウンという比較的新しい閑静な住宅街の中に並んでいる。

そんな「大正」に、どんな歴史があるのか。それを探るため、栗木の町に詳しい曽根武夫さんを訪ねて、昔のことを色々お聞きした。

その中で、次のような写真を紹介された。

タイトルには明治 42 年 9 月 15 日上笹下神社創立記念と書かれている。

明治時代、国策で神社の統合が進められ、上笹下では田中、栗木、矢部野、上中里、峰、氷取沢の 6 神社が現在の栗木神社の場所に集められ上笹下神社とされた。これはその時の記念写真である。

左側ブロックの拡大。

A：日下村村長　金子助三郎

B：日下村収入役　伊澤庫次郎

C：栗木の総代人　鈴木國蔵

右側ブロックの拡大。

A：地主、農業　宮内清次郎

B：栗木の総代人　鈴木定吉

C：伊澤庸次郎（この時点では肩書等不明）

この写真に関しては、明治時代の神社統合の史料として説明を受けたのだが、この時はまさか「大正支線」にかかわる人たちが写っているとは思ってもいなかった。

写真を見せていただいた翌 2019 年 1 月 27 日、「磯子のお宝さがし」と題して第 43 回いそご文化資源発掘隊を開催したが、その時、曽根さんの案内で訪ねたのが栗木町 2

丁目 4 番あたりにある記念碑。

漢字だけで何かが書かれている。辞書をひきながら解読してみると、おおよそ、こんなことが読み取れた。

・・・栗木の土地は肥沃といえども、道路は峻嶮で歩行に苦しむ。河川は曲がりくねり、田圃は階段状で角が多く、域内の識者はこれを憂えていた。

*そこで**伊澤庫次郎**、**宮内清次郎**、**伊澤庸次郎**、加藤源兵衛、黒川粂次郎、**鈴木國蔵**、黒川和一郎、黒川角次郎、黒川仙次郎が協力して、道路を修復し、河川の灌漑・排水を整備した。*

その区域は字新川百壱番から・・・云々・・・

工費は千五百拾六円七拾五銭五厘。

本県補助金参百七拾六円也。

大正弐年拾月起工、四年五月竣工。旧字名を大正耕地と変更。

その結果、農産物の増収が得られたので、その功績を称えて、ここに記念碑を建立する。

大正四年拾壱月　川村鹿峰撰　林翁謹書

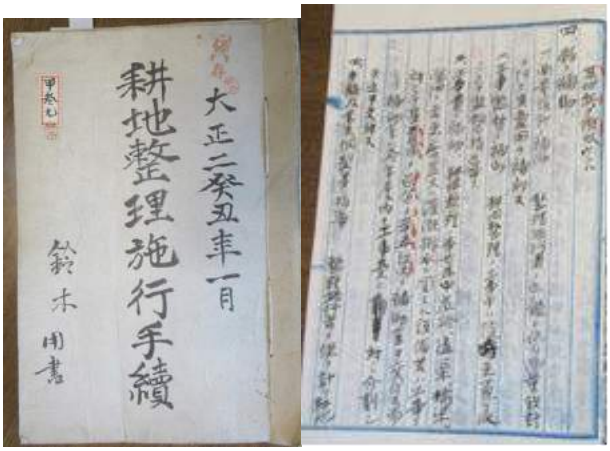
大正時代に耕地を整理した 9 人の名前が彫られているのだが、なんと、その中に明治 42 年の上笹下神社創立にもかかわっていた人物が 4 人もいたのである。

明治 42 年の写真で宮司のうしろに立っていた鈴木定吉氏。この方は地域のいろいろな役職についていた。

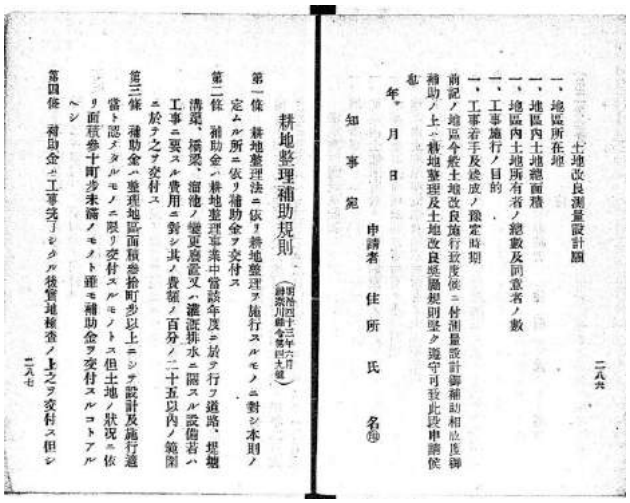
上笹下神社氏子総代、戸主会長、栗木共有総代、全農会総代、金台寺檀徒総代などである。

その孫の鈴木治男さんが栗木に在住しており、定吉氏が残してきた各種資料を、現在も茶箱の中に入れて保管している。

久良岐郡日下村栗木耕地整理施行地区確定図。色褪せもせずきれいな状態である。



耕地整理施行手続と書かれた書類。マニュアルだ。そこには神奈川県から百分の二十五までの補助金が得られると書いてある。



一、土地改良測量設計圖
一、地區所在地
一、地區内土地總面積
一、地區内土地所有者ノ總數及調査者ノ數
一、工事施行ノ目的
一、工事着手及終成ノ豫定時期
前記ノ地區今般土地改良施行致度候ニ付測量設計御補助相成度御補助ノ上ハ耕地整理及土地改良組合規則ヲ遵守可致此段申請候也

年　月　日　　申請者　住所　氏名㊞

知事宛

二八六

耕地整理補助規則（明治四十三年六月神奈川縣令第四十九號）

第一條　耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スルモノニ對シ本則ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ耕地整理事業中當該年度ニ於テ行フ道路、堤塘溝渠、橋梁、溜池ノ變更廢置又ハ灌漑排水ニ關スル設備若ハ工事ニ要スル費用ニ對シ其ノ費額ノ百分ノ二十五以内ノ範圍ニ於テ之ヲ交付ス

第三條　補助金ハ整理區面積參拾町歩以上ニシテ設計及施行適當ト認メタルモノニ限リ交付スルモノトス但土地ノ狀況ニ依リ面積參十町歩未滿ノモノト雖モ補助金ヲ交付スルコトアルヘシ

第四條　補助金ハ工事完了シタル後實地檢査ノ上之ヲ交付ス但シ

二九七

補助金に関しては、耕地整理補助規則に書かれている。（神奈川県令第 49 号　明治 43 年 6 月）

「補助金は・・・堤塘溝梁、橋梁、溜池の変更廃置または灌漑排水に関する設備・・・に対しその費額の百分の二十五以内の範囲において之を交付す」

そのため、会員 9 名で日下村栗木耕地整理組合がつくられ、会長に伊澤庫次郎氏、副会長に宮内清次郎氏が選ばれた。

工事の請負人は荒井市五郎、下請は志村高明（あるいはその親）であった。しかし、工事完了後は減歩を巡って混乱。一時は会長、副会長が辞任する事態に陥ったが、のちに復帰し、無事補助金を受けとることができた。（横浜市で第 1 号）

土地宝典　磯子区の部　昭和６年

完成した大正耕地が昭和 6 年の土地宝典に反映されていた。

さて、上笹下神社創立記念写真に写っていて、大正耕地記念碑にその名が刻まれている伊澤庸次郎氏とは、どのような人物であったのか。

記念写真の中で洋服を着ているのは村長と伊澤庸次郎氏のみ。地元の資産家だろうか。コートにバッチが付いているところを見ると、県庁の役人のようでもある。

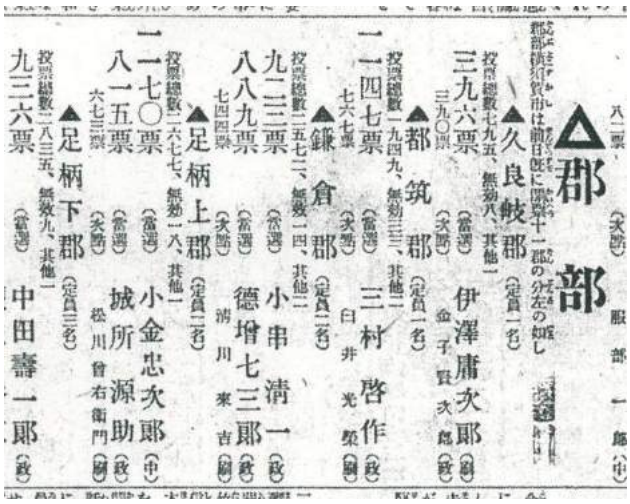
曽根さんの調査によると、伊澤氏は山梨の出身だったというから、もしかしたら生糸関連で生糸検査所の職員だったかもしれない。

耕地整理組合の会長が日下村役場の収入役（伊澤庫次郎）だったこと、横浜市で最初の補助金を得たこと、神奈川県庁との間で度重なる折衝を行ったことなどを考えると、伊澤庸次郎氏は県庁職員だった可能性が高い。

曽根さんのお話では、伊澤庸次郎氏は大正時代に県会議員になったという。

大正８年９月１９日の横濱貿易新報に載った候補者。下段左から二人目が伊澤氏。久良岐郡は定数 1 名で伊澤氏の他に金子賢次郎氏が立候補していた。

大正 4 年 5 月に竣工した耕地だが、いろいろ紛糾して組合が解散したのは大正 7 年だった。県会議員の選挙はその翌年に行われたので、伊澤庸次郎氏は大正耕地の完成を背景に立候補してきたのだろうか。


△郡部

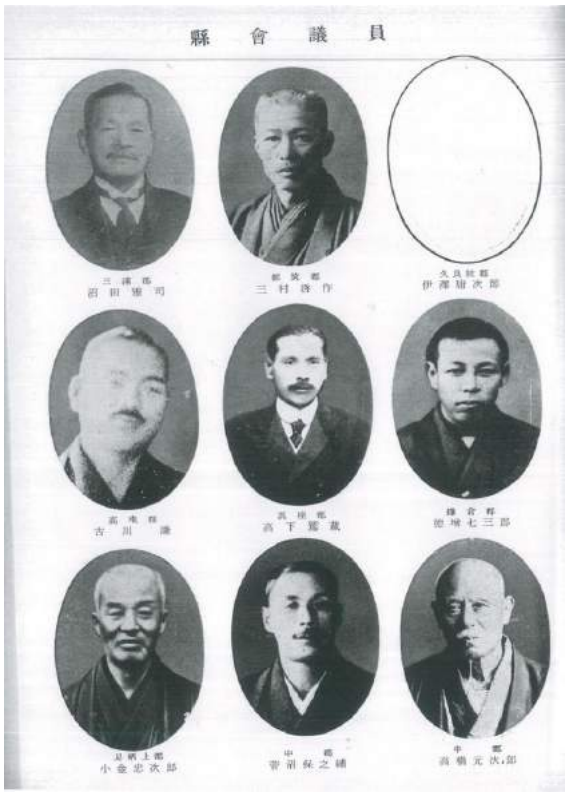
▲久良岐郡（定員一名）
投票總數七九五、無効八、其他一
三九六票（當選）伊澤庸次郎（政）
三九〇票（次點）金子賢次郎（政）

▲都筑郡（定員一名）
投票總數一九四九、無効三三、其他二
一一四七票（當選）三村啓作（政）
七六七票（次點）臼井光榮（無）

▲鎌倉郡（定員二名）
投票總數二五七二、無效一四、其他二
九二三票（當選）小串清一（政）
八八九票（當選）德增七三郎（政）
七四四票（次點）清川來吉（無）

▲足柄上郡（定員二名）
投票總數二六七七、無効一八、其他一
一一七〇票（當選）小金忠次郎（中）
八一五票（當選）城所源助（政）
六七三票（次點）松川曾右衛門（無）

▲足柄下郡（定員三名）
投票總數二八三五、無效九、其他一
九三六票（當選）中田壽一郎（政）



大正８年９月 27 日（土）の「横浜貿易新報」に載った選挙結果。久良岐郡は伊澤庸次郎氏が 396 票、金子賢次郎氏が 390 票。その差はわずか 6 票だった。無効が 8 票あったのでかなり揉めたのではないだろうか。

『神奈川県会史』第４巻に議員の任期が載っている。それによると、

北見　忠蔵　大正 4 年～7 年 6 月
福島柳治郎　大正 7 年 7 月～大正 8 年 9 月
伊澤庸次郎　大正 8 年 9 月～13 年 6 月
北見保太郎　大正 13 年 6 月～14 年 7 月
荒井福之助　大正 14 年 8 月～昭和元年 12 月

伊澤庸次郎氏以外の議員は 1 年から 2 年程度と短かったが、彼は 4 年 9 か月も議員を務め、その長さが際立っていた。

『県会史』には全員の顔写真が載っているのだが、なぜか伊澤庸次郎氏だけが空白なのである。神奈川県庁が発行した正式な歴史書に載っていないとは、どういうわけなのだろうか。

他の議員と違い 5 年近くも務めてきたのに、彼だけ写真がないはずがない。

不思議に思っているところに、曽根さんが伊澤庸次郎氏の墓石の写真を撮ってきてくれた。

大正 13 年 4 月 10 日に 57 歳で亡くなっているのだ。県議の任期満了は 6 月だったので、その直前に亡くなったことになる。そして年齢から逆算すると、伊澤庸次郎氏は

慶応 4 年か明治元年生まれだったことが分かった。

ということは、例の記念写真を撮影したときは 42 歳くらいだったことになる。

ここからは想像になるが、伊澤庸次郎氏は神奈川県庁の幹部職員であると同時に、栗木の一住民として耕地整理組合の会員になって活動していたのだと考えられる。それは伊澤庫次郎氏（弟か従弟だった）が村の収入役であり、同時に組合の会長を担っていたことからも類推できるのではなかろうか。

まあ、それはともかく、「大正支線」というケーブル名は、この地域の字名にちなむものであったことは確かである。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

もう一つの謎であるバス停「温室前」。近くには温室など見あたらない。これは何なのか。答えは簡単に見つかった。

磯子区役所が平成 5 年に発行した『浜・海・道Ⅱ』にバス停名の由来が書かれているのだ。

このバス停は笹下釜利谷道にある。（上図★の位置）

花栽培のはじまり

磯子区の花栽培は明治24年（1891年）頃より、中原・杉田方面でのテッポウユリの栽培から始まったといわれる。大正元年（1912年）には、中原の山口直吉氏がチューリップ、スイセンの栽培に成功し、数年後にヒヤシンス、グラジオラスを栽培している。

一方、温室栽培は杉田の伊澤九三吉氏が開祖とされる。動機は山手百番バンテング商会に勤務中、外国人の花卉愛好熱に目をつけ、明治42年（1909年）に50㎡（約15坪）の温室を作り、フリージヤ、ユリ、バラ、ゼラニュームなどをつくった。その盛況をみて中原の山口直吉氏が16・5㎡（約5坪）の温室を作り、チューリップ等の球根類を栽培した。さらに大正末期（1924年）には、5～6名の人々が温室を作り、花卉栽培が大盛況となって富岡や笹下付近へと広がったといわれる。

イースター・リリー
（横浜植木㈱提供）

同書によれば、磯子における花卉栽培は明治 24 年頃より、中原・杉田方面でのテッポウユリの栽培から始まったという。

一方、温室栽培は杉田の伊澤九三吉氏が開祖とされている。彼は、外国会社に勤務していた時に、外国人が花を愛好することを知り、明治 42 年に約 15 坪の温室を造り、ユリ、バラなどを栽培し始めたのである。

その盛況をみて中原、笹下、富岡付近の農家にも広がっていったという。

バス停「温室前」

栗木には「温室前」というバス停がある。

しかし今、まわりを見渡してもそれらしき形跡はない。

この辺では昭和十年頃から二十年頃にかけて、山梨県出身の志村高明氏が妻ハツさんと共に百坪と九十坪の2棟の温室でカーネーションや菊を栽培していたという。

「バス路線を開設する際にバス会社の人が来て、この名前を付けたんですよ。温室では夫と二人でテッポウユリやカーネーションを作り、『ガンギ（岩亀）』と呼ばれた戸部市場に出荷しました。

早出しの菊を作ったときは、温室のまわりを黒い布やゴザで覆って、日照時間を調節しました。冬は温度管理のため、夕方の5時から朝の5時まで一晩中、夫と二人、交代で石炭のボイラーを炊きました。その時は私が先に起きて、夜中の12時に夫を起こして交代したものでした。」

（元横浜市緑化センター所長　堀保男）

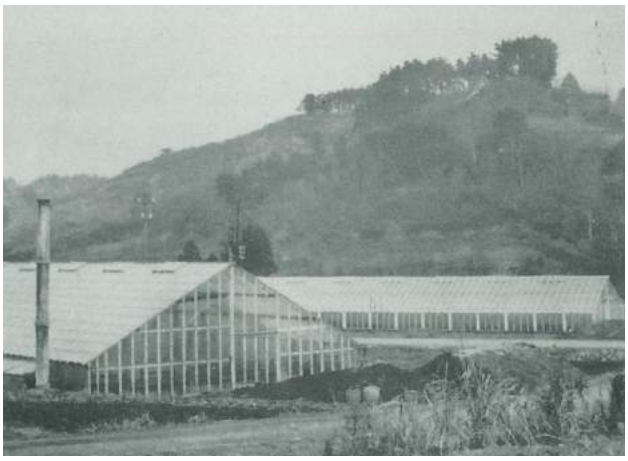
同書は花卉栽培のはじまりに続いて、「温室前」というバス停名にも言及している。

≪昭和十年頃から二十年頃にかけて、山梨県出身の志村高明氏が妻ハツさんと共に百坪と九十坪の２棟の温室でカーネーション

や菊を栽培していた≫

当時、まだ健在だった妻のハツさんが、バス停名の由来を語っている。

≪バス路線を開設する際にバス会社の人が来て、この名前を付けたんですよ≫



昭和 10 年頃の写真も載っている。笹下釜利谷道路を挟んで 2 棟の温室が並んでいる。向こう側の小高い丘は、現在の三井団地付近だと曽根さんの解説があった。

温室内部の写真。左端が志村高明氏で、右端が妻のハツさん。たくさんのカーネーションが咲いているのが分かる。

冬は温度管理のため夕方５時から朝の５時まで、二人交代で石炭のボイラーを炊いていたそうだ。

温室でつくった花は、当時「岩亀」と呼ばれた戸部市場（横浜生花卸売市場）に出荷していたという。

曽根さんのお話では、昭和１５，６年頃になると、花なんか栽培していないで米を作るよう求められ、温室栽培は終わってしまったという。

こうして志村高明氏の花卉栽培は終焉したのだが、戦後、思わぬところからその名前が登場する。なんと横浜市会議員の選挙に立候補しているのだった。

神奈川新聞

縣市議戰の火蓋切らる

矢繼ぎ早に立候補

息詰る攻防戰 相模野に展開

縣議立候補屆出

横濱市

川崎市

昭和 22 年 4 月 11 日の神奈川新聞。県会議員、市会議員選挙の告示があったことを伝えている。これが戦後最初の地方選挙である。投票日は 4 月 30 日（水）。

市議立候補屆出

横濱市

足柄下郡

足柄上郡

三浦郡

中郡

市会議員の立候補者が並んでいる。当時の磯子区は現在の金沢区エリアを含んでいたので、かなり大きな区域を持っていた。だから定数は８名。

その中に志村高明氏の名前があった。経歴を見ると、栗木町２２２番地在住の土建会社社長で４９歳。この時に４９歳というから明治３１年（1898）年頃の生まれらしい。

戦後初の地方選挙ということで、現在では考えられないようなことがあった。4月10日の告示を過ぎても、五月雨的に次々と立候補者が現れているのだ。

◇磯子區

△吉田清孝　四四、無、計理士、磯子區六浦町三一四六

△森田良太郎　六五、無、無職、磯子區中原町六一八

△大泉五郎兵衛　五九、民主、農類食料品販賣、磯子區磯子町一六八七

△三村健彰　四三、社會、鞄職十、磯子區六浦町三五四八

△森福太郎　四一、無、會社重役、磯子區釜利谷町七一八

△長嶋俊　四七、無、土建請負業、磯子區寺尾町一七〇

△玉浦芳次郎　四四、社會、新聞記者、磯子區磯子町谷九三〇

△佐藤安治　四六、民主、會社員、南區蒔岡二ノ二一二

これは4月12日の新聞。さらに8人が立候補している。

◇磯子區

△早川律　三一、無、工場從業員、鶴岡町六〇

△内田三之進　四四、自由、稼業調査員、洲崎一九〇

△久野晃雄　四〇、中立、社長、中根岸二ノ六二

△飯塚總一　四二、共產、工員、岡村町七三二

△藏原寅吉　四六、無、漁業、中原町一八

市議立候補者

横濱市

◇磯子區

△志村保直　四七、無、石橋寅四郎、會社嘱託、磯子町字瀧一六八七

左の記事は4月13日のもの。19日にも一人が立候補している。最終的には30人の立候補者が現れた。

記事によれば、有権者数は約 56,000 人、予想有効票が7割として約44,000票。

定数8人のところに立候補者が30人の乱立。組織、血縁、地縁、同業が保守、革新、中立入り乱れて大変な状況になっている。

主な顔ぶれとしては佐藤安蔵（自）、小沢二郎（民）、鹿島源左衛門（自）、飛鳥田喜一（民）。この辺が安泰で、米窪明一（社）、玉浦芳次郎（社）、早川律（無）、飯塚総一（共）、三村健彰（社）、横山文治（社）は勤労大衆や青年層の支持狙いだという。

蔵原年光（無）は戦災者引揚者層に地歩を固め、杉田では町内会長17年の渡辺正夫（民）が連合町内会を背景にその票6,000を狙う。**その中に志村高明（無）が食い込む。**

志村保直（無）、石橋寅四郎（無）はそれぞれ石川島、日飛の戦時中の従業員。

なかなか厳しい状況だったようである。その結果は……

市議當選者決る

横濱市

◇西區

◇港北區

◇戸塚區

◇鶴見區

◇中區

◇磯子區

◇神奈川區

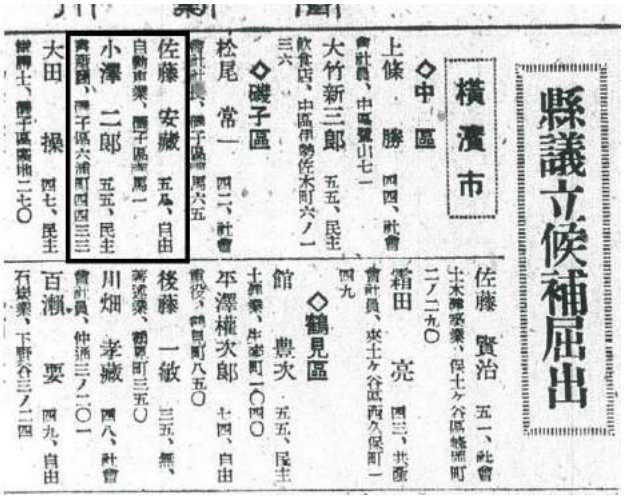
選挙結果を伝える5月2日の記事。（神奈川新聞）

新聞社の予想どおり禅馬の佐藤安蔵（自）、六浦の小沢二郎（民）、富岡の鹿島源左衛門（自）、広地の飛鳥田喜一（民）は当選。

残りの 4 人は勤労大衆や青年層に支持された西根岸の横山文治（社）、米窪明一（社）、三村健彰（社）、そして釜利谷在住の会社重役・森福太郎（無）であった。

残念ながら志村高明氏の名前は無い（涙）。

今回、昭和22年の地方選挙を調べている中で、とんでもないことが分かった。


縣議立候補届出

横濱市

◇中區

上條 勝 四四、社會 會社員、中區寶山七一

大竹新三郎 五五、民主 飲食店、中區伊勢佐木町六ノ一三六

◇磯子區

松尾 常一 四二、社會 會社員、磯子區磯馬六五

佐藤 安藏 五八、自由 自動車業、磯子區磯馬一

小澤 二郎 五五、民主 書籍商、磯子區六浦町四四三三

大田 操 四七、民主 醫師、磯子區磯地二七〇

佐藤 賢治 五一、社會 土木請負業、保土ケ谷區釜洲町二ノ二九〇

霜田 亮 四三、共產 會社員、來土ケ谷區西久保町一四九

◇鶴見區

館 豊次 五五、民主 土木業、牛込町一〇四〇

平澤權次郎 七四、自由 重役、鶴見町八五〇

後藤 一敏 三五、無 菓子業、鶴見町三五〇

川畑 孝藏 四八、社會 會社員、仲通三ノ二〇一

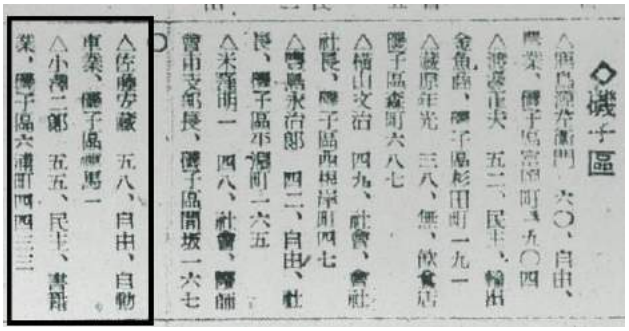
百瀬 要 四九、自由 石炭業、下野谷三ノ二四

県議の立候補者に名を連ねている佐藤安蔵氏（自）と小沢二郎氏（民）に注目。

この二人は、なんと市議選にも立候補していたのだ。同姓同名ではない。年齢も住所も同じ。今でいうところの重複立候補！

横浜市の選管に問い合わせたところ、当時は法律が整備されていなかったため、こんなことが許されたという。

そしてその結果、二人とも県会と市会で当選！　しかも県会議員をやりながら市会議員もやっていたというではないか！　すごい時代だったのだ。


◇磯子區

△佐藤安藏 五八、自由、自動車業、磯子區磯馬一

△小澤二郎 五五、民主、書籍業、磯子區六浦町四四三三

さて、戦後初めての市会議員選挙に立候補し、残念ながら大差で敗れた志村高明氏であるが、その4年後の昭和26年4月23日の選挙にも立候補している。この時は金沢区を分区したあとなので定数は4人。そこに8人が出馬。志村高明氏に関しては次

保土ケ谷区

（定員五、立候補十三）

佐々木修二45 共新 無職

荒木三郎三郎45 社前 会社員

三ノ輪徳之助62 無新 無職

栗原 清治57 無新 農業

佐藤 正平37 社前 農業

桜島 成吉69 無新 医師

清水 治作42 自前 農業

本郷 金作54 自前 農業

山陽 昇58 自前 会社重役

山本 林蔵52 無新 理髪業

新田 嘉光31 社新 会社員

大久保芳太郎50 社新 無職

堀内 万吉46 民新 薬剤師

磯子区

（定員四、立候補八）

関 寅吉 四四、社前、農業

荒井 一郎46 無新 会社員

志村 高明52 無新 婦人連

横山 文治51 社前 会社重役

小川 義夫56 無新 協会理事

佐藤 安藏60 自前 会社重役

金沢区

（定員四、立候補九）

藤下 一男41 民新 薬種業

村本 信栄40 無新 貸地業

平野 栄蔵47 無新 商業

鹿島勇左衛門63 自前 農業

三村 健彦46 社前 弁護士

宇野 忠夫45 無新 会社々長

野村 広武44 共新 無職

小沢 二郎57 民前 商業

森 益太郎44 民前 会社重役

県議の立候補者に名を連ねている佐藤安蔵氏（自）と小沢二郎氏（民）に注目。

この二人は、なんと市議選にも立候補していたのだ。同姓同名ではない。年齢も住所も同じ。今でいうところの重複立候補！

横浜市の選管に問い合わせたところ、当時は法律が整備されていなかったため、こんなことが許されたという。

そしてその結果、二人とも県会と市会で当選！　しかも県会議員をやりながら市会議員もやっていたというではないか！　すごい時代だったのだ。

のような評価が出ている。

≪屏風浦地区から市会議員を、という声があり、婦人連を一本化した志村高明だが、そこに関寅吉氏が飛び入り、二つに割れて形勢不明。≫

そして気になる結果は……

磯子区（定員四）

またもや落選…（涙）

結局、この選挙を最後に志村高明氏は政界入りをあきらめ、事業に専念することになったようである。

彼は戦時中に温室を使った花卉栽培をやめて、戦後は土建業で財を成したと言われている。それを証しするかのような史料が磯子区民文化センター杉田劇場に残っている。旧杉田劇場の舞台幕を写した写真だ。

昭和21年1月に戦後いち早くオープンした旧杉田劇場。大高ヨシヲ一座の時代劇や市川門三郎の歌舞伎などで全市から観客を集め、京浜急行はそのおかげで大儲けをしていたという。

しかし羽振りが良かったのは昭和22年頃までで、横浜都心部に劇場が復活し、また新しい映画館があちこちにできてくると、旧杉田劇場の人気は陰り始める。

昭和23年、地元有志の好意による株式購入で、一時的には資金難から立ち直り、同じころ旧杉田劇場を応援する町の人々から新しい舞台幕も寄贈された。

その幕には支援した人たちやお店の名前が書かれている。ど真ん中で、しかも両サイドとは間隔をとって君臨しているのが志村高明氏だ。

舞台幕新調のため多額の資金を提供したのだろう。もしかしたら大高ヨシヲや市川門三郎の大ファンだったのかもしれない。

ちなみに、右に並んでいる「日晴楼」は桜木町駅前にあった中華料理店で、経営者の吉澤はつ（磯子区森町）さんは旧杉田劇場の常連客だった。その関係で舞台幕に名を連ねているのであろう。

その隣、代々木屋呉服店、野村電気商会は杉田商店街の老舗だった。

左側に並ぶ杉田公設市場は、京急杉田駅の斜め前にあった。ここには美空ひばりの父親・加藤増吉氏が経営する「魚増」の支店があった。これがオープンした日には、美空ひばりが手伝いにやって来るというので、駅前の道路は群衆でギッシリと埋まり、歩くこともできなくなるほどだったという。

牛豚肉の「石川」は現在も杉田駅第1踏切際で営業中。「満るや深野金物店」は現在の「深野力蔵商店」だ。

このように多くの人々によって支えられていた旧杉田劇場であるが、結局は昭和25年10月3日に株式会社としては解散してしまった。

しかし、その後も営業は続き、昭和27年まで貸館として存続していたことが、新聞広告や写真から分かっている。葡萄座の公演や浜中学校の学芸会などで利用されていた。

その後の伊澤庸次郎氏と志村高明氏

伊澤庸次郎氏：大正13年に57歳の若さで亡くなってしまったが、彼が手掛けた栗木町の「大正耕地」については、路地裏にその功績を称える記念碑が残された。

さらに近くの住宅街には、その名が付けられたNTTのケーブルが張り巡らされている。

志村高明氏：亡くなった年は不明だが、土建業の他に伊豆北川で旅館も経営していたという。そこをやめたあとは、親族が栗木町に「びいどろ亭」という懐石料理のお店を出した。しかし、それも10年ほど前に廃業し、現在、そこには大きなマンションが建っている。

現在、志村高明氏の温室に関わる史跡はなにもないなかで、唯一残されているのがバス停「温室前」である。

［了］